

## 「2015年度スタディツアーのご報告」

2015年は9月7日から12日までの6日間の日程でスタディツアーを実施し、学生・社会人を含む9名の参加者が集まりました。短い期間ではありましたが、参加者の皆様と一緒にミャンマー難民・移民の現実を知り、問題について考えることができました。

### ◇ 1日目

バンコクのスワンナプーム空港でスタディツアー参加者の皆様と集合し、ノックエアでメソト空港へ。メソト到着後に早速、国境の橋へ行きました。赤ちゃんを背負った子供が、お金を要求するように手を伸ばしてきたのが印象的でした。国境を渡る正規のルートはもちろんお金を払って橋を渡ることですが、川を渡って非合法に入国する人も少なくないのだそうです。また、橋のたもとの河原はどちらの国にも属さず、どちらの法で裁かれないため無法地帯となっているとのことでした。



### ◇ 2日目

午前中はメータオ・クリニックの見学した後、クリニック内にある図書室でシンシア先生からのビデオメッセージを見ました。メータオ・クリニックの見学では、外来の診察室や病棟、義足制作のお部屋などをJAMの現地スタッフに案内していただき説明を受けました。今回は残念ながらシンシア先生にお会いすることは出来なかったのですが、ビデオメッセージではシンシア先生のご経験やシンシア先生の考えをお話ししてくださいました。また、参加者さんの質問に対しては副師長さんが答えてくださりました。午後は、当会代表の小林が合流し、国際地域保健入門のワークショップを実施。リバタリアンとコミュニタリアンについてのお話や、日本人として、また医師・看護師として途上国にてできることとは何かなどを参加者の皆様、JAMスタッフで考えました。夜はメータオ・クリニックの元職員で現在は画家のマウンマウンティンさんのお誘いを受けて、ご自宅で料理を振る舞っていただきました。

#### ◇3日目

朝マウンマウンティンさんにビルママーケットを案内していただき、朝ご飯までごちそうになりました。その後、多くの参加された方が関心を持っていた難民キャンプ（メラキャンプ）へ訪問しました。国境近くに公式の難民キャンプが設置されてから約30年、キャンプとはいえども、一見普通の村のように感じられました。十分ではありませんが、海外のドナーによって支えられている医療施設や学校、図書館等もありました。少数民族であるために迫害され、祖国ミャンマーから逃れてきた難民の方のほとんどは、まだ環境が十分改善されていないためミャンマーに帰りたくないと考えているのに、ミャンマーは民主化したということでタイ政府は難民をミャンマーに送り返そうとしています。



#### ◇4日目

終日自由行動の日でした。午前中は約半数の参加者さんがオブションのメソト郡病院の見学に参加されました。郡病院では、まず副院長さんや看護師さん達がパワーポイントを用いて病院の概要や取組について説明してくださいました。その後は、看護師さん数名が、外科や小児科病棟等を案内してくださいました。また、参加された方の多くが国境の橋を渡り、ミャンマーに入国しました。他にもビルマ人マーケットを楽しんだり、ミャンマー料理教室に参加するなど、それぞれ自分のペースでこの日を過ごせました。

#### ◇5日目

新メータオ・クリニックの見学と移民学校のHOPEスクールとSky blue校の訪問をしました。新メータオ・クリニックはまだ建設中でしたが、とてもきれいで完成を待ち遠しく感じました。この新施設は日本政府も支援をしています。移民学校では日本から持ち寄ったおもちゃを使って子ども達と遊びました。子供たちのきらきらした笑顔がとても印象的でした。

そして、午後はゴミ山へ。まず匂いに衝撃を受けました。大量のハエが飛び交い、黒い水たまりができていました。しかし子供たちにとっては遊び場のようで、裸足でゴミ山に登り遊ぶ姿がみられました。工場労働するよりも、努力すれば倍の収入を得られるとの理由

から住んでいる方もいらっしゃるそうです。

夜には、他の NGO の方等様々な方々とナイトマーケットで食事をし、たくさんの貴重なお話を聞いたり相談したりすることができました。



#### ◇ 6 日目

最終日はこのスタディーツアーの感想や学びを皆で共有しました。自分だけでは気付かなかったことや理解できていなかったところの学びになりました。来年もまたたくさんの方がこのツアーに参加され、多くのことを感じ、学ばれることを願います。

以上 2015 年のスタディーツアー報告でした。